

Publicity Report

新聞・インターネット・情報誌などで
紹介されたミックの記事のご紹介



[ミック]グループ 株式会社三春情報センター

[朝日新聞デジタル] 2016年2月17日(水)掲載 (発行:朝日新聞社)

朝日新聞 DIGITAL

地域 > 神奈川 > 記事

2016年02月17日

ツイート

おすすめ 0

G+ 0

B! 0

メール 印刷

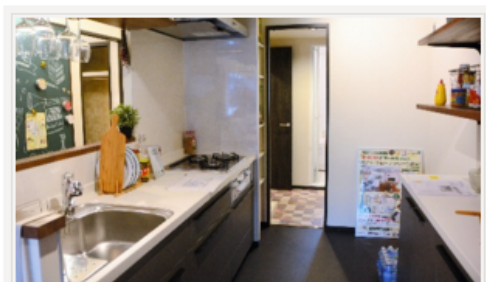
企画特集 3 【元気のひけつ】

家事楽ちゃん こだわりの物件



拡大

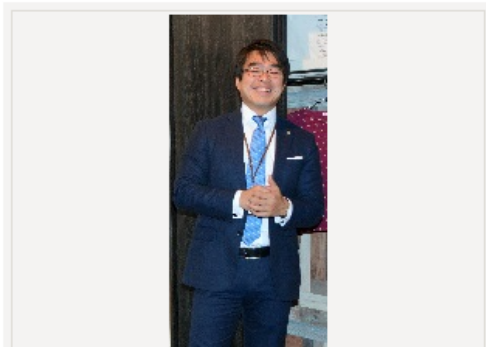
「物件が良くて、町が寂れていたら絶対に人は来ないです」。熱のこもった早口だった。不動産仲介などを手がける三春情報センター(mic、横浜市港南区)の2代目。築40年になる野庭団地(横浜市港南区)の一戸で、大幅に改修するリノベーションを実施し、2月に一般公開した。



拡大

「ママの好きないい団地」のキッチン。家事の動線を考え、隣が洗濯室になっている＝横浜市港南区野庭町

子育て世代の意見を取り入れながら間取りを変えたプロジェクト名は「ママの好きないい団地」。洗濯機から台所、ベランダまでが一直線で、家事が楽ちゃん。どの部屋にも十分な収納スペースが確保され、子どもの成長に合わせて2LDKを3LDKにもできるなど、徹底的に生活目線にこだわった提案だ。2月の見学会では約150人が訪れた。春木磨碑露(ま・ひろ)社長(38)は「提案したのは私ではありません。僕より社員は真剣」と謙遜して笑う。



春木磨碑露社長

拡大

会社の創業と同じ1977年に横浜で生まれた。高校卒業後、海外放浪などを経て2001年に入社。35歳で社長に就任した。入社時には、創業者の父と「10年ビジョンマップ」を作り、社長就任の日付まで決めていたという。

当初、古参社員に「おれが社長になろうと思って青春をかけてきたんだ。5年経って成長しなかったら許さない」と言われた。数年後、「磨碑露さんが社長に」と認められ、磨碑露さんは号泣したという。

高齢化が進み、周辺の町並みも寂れてきた野庭団地で昨年度、69件の取引を手がけた。「うちのシェア率が高いので、住む人への責任がある」と話す。地域で信頼される経営を目指したいという。

歳月と共に下がり続けるマンションの資産価値を上げるためには、物件の改良だけでなく、町全体のブランド力を底上げする必要があるとの考えから、町おこしにも積極的に取り組む。昨年3月には、近くの丸山台いちょう坂商店街に持ちかけて歩行者天国を実施。地元小学生がマーチングバンドを披露したり、飲食店がブースを連ねたりするなどして、約1万5千人を呼び込んだ。歩行者天国は今年も3月20日に開催される。

「ママの好きないい団地」の根本にも地域活性化への思いがあったと経営企画室マネジャーの佐藤貴規(たか・のり)さん(39)は話す。「団地の価値を高めて人口が増えれば街の価値も上がるのでは」と相乗効果を期待する。

◇春木磨碑露社長「天命を受けて人事を尽くす」

座右の銘は「天命を受けて人事を尽くす」。24歳で結婚した時、父から贈られた言葉です。書かれた色紙には「父より」が×印で消されて、「経営の先輩より」。天命を悟ったのは、30歳で身体を壊してから。私がいなくても会社は回っていく。私にできることは「社員と家族を幸せにする」ことでした。

◇三春情報センター(mic)

1977年2月、横浜市栄区で不動産仲介業として創業。「総合生活産業」を標榜(ひょう・ほう)し、現在の事業は不動産関連のほか、保育園、デイサービス、レストランの経営など多岐にわたる。横浜市内を中心に展開し、地域への「土着」を目指す。従業員は約180人。

(興野優平)

[朝日新聞デジタルトップ](#) | [地域トップ](#) |

ミックの社長と中古住宅流通促進プロジェクト「ママの好きないい団地」が朝日新聞の《企画特集：元気のひけつ》にて取材をいただきました。

本件が、朝日新聞に掲載されました。

